




政務活動費収支報告書

令和2年4月1日

(あて先) 飯能市議会議長

議員氏名 松 橋 律 子 

飯能市議会政務活動費の交付に関する条例第5条第1項の規定に基づき、下記のとおり令和元年度の政務活動費収支報告書を提出します。

1 収 入 政務活動費 180,000 円
 2 支 出 95,590 円

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
調査研究費	2,140	「国際展示場福祉機器展」
研 修 費	31,360	「地方議員研究会」
広 報 費		
広 聴 費		
要請・陳情活動費		
会 議 費		
資料作成費		
資料購入費	1,980	書籍
人 件 費		
事 務 所 費		
その他の経費	60,110	コピー用紙、インク 等
合 計	90,734	

3 残額 84,410 円

- (注) 1 備考欄には、支出の内訳を記載すること。
 2 領収書その他支出を証する書類の写しを添付すること。
 3 政務活動費収支報告書に係る政務活動事業実績報告書を添付すること。

様式第5号（第5条関係）

政務活動事業実績報告書

議員氏名 松橋律子

飯能市議会政務活動費の交付に関する規則第5条第2項の規定により、令和元年度政務活動費に係る事業実績報告書を次のとおり提出します。

月 日	事業名	事業概要及び成果等
令和元年 9月27日	第46回東京ビックサイト会場 「福祉器具の展示会」	<p>二年前参加した時よりも機器の進化に大変驚いた。会場内には「福祉機器(移動機器・移動補助製品・ベッド・寝具の関連用品・入浴用品・トイレ・おむつ日常生活用品・コミュニケーション機器・送迎車)等の展示がされていた。</p> <p>参加者には車イス利用者も多く見受けられた。</p> <p>また展示品では、介護者を支たり、抱きかかえる時の新製品も多く出店されていました。</p> <p>更に介護者に多大な負担がかかることから更に改良を重ねた「マッスルスーツ」を前回同様に作業体験をしました。更に、今回の製品は総重量が軽く、装着しやすいので、20キロの箱を違和感なくスムーズに持ち上げることが出来ました。</p> <p>価格は、25万～50万以上で、多種製品化され、更に需要も増え、介護市場に出回っているとのことでした。また自宅でも使用する為には、価格が下がり、介護者の負担の軽減・と更に快適に仕事ができることが望ましい。介護ロボットの開発は素晴らしい、まだまだ未来が多くあると思います。</p> <p>また、遠隔操作によるケアや状態の情報収集も速やかに管理・ケアができるなど、様々なデータ管理の基で行われる説明講習も行われていました。</p> <p>今後も、更に進化した現場の活用状況も見たいと思います、また機会があれば行ってみたい。</p>

<p>令和2年 2月8日</p> <p>10時～ 12時30分</p>	<p>・「地方議員研究会」主催 ・東京セミナー講座を受講 ・会場 TKP東京駅日本橋 カンファレンスセンター</p> <p>1 講座 【医療保険制度の財源と給付 から検証する地域・世代・保護 者間格差】</p>	<p>地方議員研究会 場所：TKP東京駅日本橋カンファレンスセンター 講師 甲南大学経済学部 足立泰美</p> <p>1時限 医療保険制度の財源と給付から検証する地域・ 世代・保険者間格差</p> <p>＜主な内容＞</p> <p>【医療保険制度の財源と給付から検証する地域 世代・保護者間格差】では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外と比較した日本の医療保険制度の特徴。 ・我が国の医療保険制度の財源と給付の構造 ・医療資源、医療給付、保険料における格差 ・介護保険料設定と公費負担からみる財源構造 <p>を学んだ上で、自治体の地域格差・世代・保険者 格差は30年以降にはデータヘルスに基づいた改 革を推進していること。</p> <p>・低所得者対策に合わせて、財政調整基金の活用 「財政調整機能の強化」また「保険者努力支援制 度」は、医療の適正化が取組みに求められることを 強く言われていた。・また県は市町村に必要な助 言・支援をするが、市は更に保険給付の決定では、 <u>個々の事情に応じた窓口負担減免等</u>が出来ること から、<u>市の役割は被保険者の。特性や事情に応じ た個々を推進すると共に対応等の状態に合わせた 判断が出来ることが分かった。</u></p> <p>＜主な成果＞</p> <p>本市でもデータヘルス事業等も実用化が進み大きく 推進・活用されているが、更にこれからの後期高齢者 医療財政については、持続可能が難しくなることも言 われている。即ちこれまでの診療報酬・保険料・自己 負担に於いても見直しがある様な事も話されていた。</p>
---	--	--

14 時～ 16 時 30 分	2 講座 【介護保険制度の財源と給付 のあり方と地域包括ケアシステ ム】	<p>2 時限 【介護サービスの種類と変遷からみる給付構造 地域包括ケアシステムの仕組み】</p> <p>＜主な内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本全体の高齢化と若者達の減少で医療介護の実態が厳しい。 ・市町村により異なるが 85 歳以上の独居高齢者の増加する中、「介護予防と高齢者の社会参加、マネジメント力の強化」が必要とのこと。 ・<u>80歳以上の急増に伴い更なる介護予防と高齢者の社会参加や医療リスクが高くなることから</u> 日常生活支援等、包括的なサービスが必要。 <p>＜主な成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山間地域の人のサポートとして交通面や生きがい支援・包括的な支援が更に必要。 ・高額になる介護保険料とそれに担うサービスの実態に不安。 ・地域格差のある中、地域特性に応じた仕組みづくりを本市もすべきことを学びました。 <p>更に「必要な方に必要な支援が、地域特性に応じて提供される仕組みづくりの必要」で、保険料の高い所は介護認定率も高く、サービス提供も多い。</p> <p>しかし、山間地域に当てはまるかは別と思うが、経度要支援1・2(経度者)重要な役割を示す飯能市独自の策が必要と考える。</p> <p>講演に参加して以上のことを強く感じて来た。</p>
--------------------	---	--

(注) 用途基準の項目別に記載すること。